



# がるがも



第55号

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo>

2022年〈令和4年〉6月



## 就任のご挨拶

病院長 中島 弘道



このたび星岡前院長の後任として令和4年4月1日から病院長を務めることになりました。

就任に当たり、ご挨拶を申し上げます。

私は平成14年に当院に赴任して以来、循環器内科医師として診療に従事してまいりました。このたび当院の運営にかかわる重責を担うことになり、志も新たに病院職員一同の力を借りて、皆様にご満足いただける医療を提供できるよう努める所存です。

さて千葉県こども病院は、1988年に千葉県が開設した小児医療総合施設であり、全国14の独立型小児病院のひとつです。以来千葉県における小児医療の中核機関として、一般医療機関では対応の困難なこどもの病気に対して、専門的な診断と治療を行ってまいりました。同時に母子保健、児童福祉にもかわり、こども達を取り巻く困難な状況へも支援を行ってきました。医療的ケア児を支え、また疾患を持ちながら成人になるこども達への移行支援など多職種によるチームを作り、県内他病院の小児科とも連携し、こども達への支援を推進しています。

この2年間は新型コロナウイルスの流行が続き、当院でも小児のコロナ患者受け入れを行っていることから、本来の疾患への医療とのバランスに苦慮しております。皆さま方にも感染対策の面で多大なご協力をいただき感謝を申し上げます。今年こそはコロナが収束する事を願って止みません。

しかしコロナ禍であってもより安全で効率的な病床の運用をめざし、昨年6月にはハイケアユニット（HCU）病棟を開棟するとともに、今年度は新たに病床管理室を設置しました。それにより更に円滑な医療の提供体制を目指します。

現在医療を取り巻く状況は年々厳しくなっております。少子高齢化、貧困などによる格差の拡大、温暖化による災害の増加、そして小児では虐待が社会問題にもなっています。コロナに加えウクライナ情勢などの社会不安がそれを一層助長することが懸念されます。そのような中でこども達の側に立って活動を続けることが、我々の使命であり誇りでもあります。また2018年にこども達を多方面から支えるための「成育基本法」が制定され、今年度は「こども基本法」が成立、「こども家庭庁」が来年発足する見込みですが、当院は千葉県におけるこれらの施策の実行にも協力を惜しみません。

当院は設立してから35年間、小児医療に取り組む中で、多くのこども達と共に歩んでまいりました。これからも全職員とともに、こども達の未来のためにより良き医療を目指して尽力する所存です。なにとぞ、よろしくお願い申し上げます。

# 2022年度新体制



副病院長 皆川 真規

こども病院には2011年4月から勤務しており、内分泌科で診療を行ってきました。  
こども病院に来るまでの自分のキャリアを振り返ると、最初の10年は小児科臨床技能の研鑽(千葉大学附属病院、千葉市立病院、君津中央病院、千葉労災病院で勤務)と研究留学(カナダのモントリオールにあるMcGill大学へ1995年から1997年の2年間)、次の10年は千葉大学小児科で臨床・教育・研究に従事しました。こども病院では、こども・家族支援センター、地域医療連携室、経営戦略部での業務を経て、病院管理業務のウェイトが増えています。最近では地域の医療機関の皆様との連携も多岐に渡るようになり、その重要性はさらに増していると感じます。今後ともよろしく願います。



事務局長 篠原 光

このたび、令和4年4月1日付けの定期人事異動により事務局長となりました。  
私は、これまでに、千葉県病院局 経営管理課や東金病院庶務課、県庁国民健康保険課などでの勤務を経験してまいりましたが、病院勤務はおよそ20年ぶりとなります。1日も早く病院スタッフの一員として、その役割を十分に果たすことができるよう努めてまいりたいと考えております。さて、事務局の業務は、患者さんに対するサービスの向上や病院職員の職場環境の整備、病院経営の健全化など多岐にわたることと存じます。これら業務に一生懸命に取り組んでまいり所存ですので、よろしくご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



看護局長 神明 直美

4月に看護局長として着任した神明直美です。千葉県旭市の出身で、5歳の時からずっと千葉県で過ごしています。就職をしてから3つの県立病院と2つの看護学校に勤務しました。今回は3年ぶりの病院勤務です。こども病院は初めてで、毎日聞きたくない言葉が耳に入りますが、早く環境に慣れて看護局長の役割を果たせるようにしたいと思います。患者さんやご家族に安全で最適な看護が行えるように、また職員が働きやすい環境がつかれるようにすることが目標です。仕事以外の今年の目標は、正倉院展に行くことと漢字検定を受けることです。どうぞよろしくお願いいたします。



医療局長 仲野 敦子

令和4年4月より、医療局長を拝命しました。また同時に、医療安全管理室長にも任命されました。医師2年目と6年目に半年間ずつこども病院で研修した後、いくつかの病院を経て、平成18年から3度目のこども病院での勤務となっております。今までは耳鼻咽喉科医として、主に難聴や手術が必要なこども達を中心に診療してきました。  
今後は、こども病院がこども達やご家族にとって安全な質の高い医療を受けられる病院、スタッフにとっても働きがいのある病院となるように、尽力していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



診療部長 数川 逸郎

この度、診療部長を拝命しました。所管する業務の、こども・家族支援センター/地域医療連携室/成人移行支援室は、当院の基本指針である「その子らしく、その子のために」を具現化する最重要部門です。また、地域の皆様方と直接触れ合う、当院の「顔」でもあります。病床管理室は激変する医療環境に対応すべく、柔軟な病床管理を行うことを目的に新たに設置された院内組織です。いずれも新米には重責ですが、これら難ミッションを実行するための鍵は「チーム医療」です。院内の多職種だけでなく、こども達やそのご家族、そして地域の皆様方も含めた“One Team” となるようにできればと考えております。そして内分泌科ですが、新たに内分泌代謝(小児科)専門医資格を2名取得することができました。これで当院には4名の専門医が在籍しております。診療も充実できるよう研鑽していく所存です。末筆ではございますが、今後ともよろしくお願いいたします。

## 新任医師紹介



アレルギー・膠原病科部長  
**富板 美奈子**

2011年～2018年まで当院に勤めており、この4月から戻って参りました。私の専門の膠原病は全身のいろいろなところに問題が起こりうる病気なので、様々な科の小児のスペシャリストの先生方と協同して診療できる病院で働けることは、とても嬉しいです。

コロナウイルスの蔓延で、食物アレルギーの負荷試験の制限などままならないことありますが、患者さん、ご家族と一緒に、患者さんがよりよい状態になれるように、診療を行っていききたいと思います。



小児外科主任医長  
**中田 光政**

小児外科の主任医長として着任いたしました中田光政と申します。千葉県こども病院は2001年4月から10月で麻酔科、2009年4月から2011年3月まで小児外科に在籍していたことがあり、今回で3度目になります。家族構成は妻、こども二人と猫4匹の人間：猫=1:1の構成で暮らしております。以前在籍していたことがあり、懐かしい感じもありますが、いざ仕事を始めるといろいろ忘れていたり新しいことも多く、また一から慣れていこうと思っています。至らない点もあるとは思いますが、小児外科、ひいてはこども病院を盛り上げていけるよう尽力したいと思いますのでよろしくお願いします。



救急総合診療科医長  
**小川 優一**

昨年度より救急総合診療科で診療をしております小川優一です。千葉県生まれ千葉県育ちで、千葉県の小児医療を盛り上げたいと思い千葉県こども病院にやって参りました。

こども達の困りやしんどさを、からだの病気だけではなく、こころの状態や本人の特性、本人をとりまく環境（家族、友人や学校など）との関係なども含めて広く評価をして、しんどさ表面だけでなく、根本にあるこども達が訴えられないものを代弁し対応することを目指しています。

「なんだかこどもが困っているけれど、どこも上手く対応してくれない」という時は是非総合診療科へのご相談をご検討ください。よろしくお願いいたします。



感染症科医長  
**山本 翔大**

歌劇団が有名な兵庫県宝塚市の出身です。生まれも育ちも関西なのですが、あまり関西弁は出ないようで、初対面の方には関西人だとほぼ気づかれません。

2015年に家庭の事情で千葉県に移ってきて、以来こども病院で働いています。この度縁あって正職員として採用して頂くことになりました。こども病院はどのスタッフも常にこどもたちのことを一番に考えており、小児科医としてとても働きやすく感じています。そんな環境でこれからも働けることを嬉しく思っています。

コロナ禍にあって感染症科に期待される役割はとても大きく、時にプレッシャーも感じますが、これまで以上に頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



麻酔科医長  
**横山 千咲**

4月より赴任致しました、麻酔科の横山千咲です。横浜市立大学の麻酔科医局に所属し、これまで神奈川、静岡、大阪などで研修を行ってきました。千葉に住むのは初めてで緊張しておりましたが、赴任して約1週間が過ぎ、病院全体の雰囲気がよくとても働きやすい環境と感じております。こども病院で手術を受ける子は繰り返し手術を必要とする場合が多いので、不安や痛みが少なくなるようこどもに寄り添った麻酔管理を心がけていきたいと思っております。

こども病院の一員としてこれから頑張りますので、よろしくお願い致します。

# 小児外科 紹介

「こどもの手術は全部小児外科では!？」という声が聞こえてきそうですが、ちょっと違います。

我々の扱う臓器は、消化器・呼吸器・生殖器・体表などで、対象患児さんは新生児、乳幼児から学童、そして時に小児期に手術を受けた成人です。病気の多くは良性疾患であり、できるだけ小さい侵襲で機能が回復できるよう留意しています。

当院には3名の日本小児外科学会指導医がおります。その専門領域は肝胆道系疾患、消化管機能、新生児外科疾患、直腸肛門奇形、悪性固形腫瘍、炎症性腸疾患などで、多様な疾患に対応できる態勢をとっています。また鏡視下手術を積極的に取り入れ、「痛くない」「傷が目立たない」「回復が早い」手術を目指しています。

こども病院の特徴は、小児専門科・専門職のスペシャリストが集い、多職種連携ときめ細かい家族支援を提供できる点にあります。こどもたちが、前向きな気持ちで入院し、手術を受け、退院できる環境を創ることに努めたい、と思っています。加えて、私たち小児外科医は、「大切なこどもさんの身体にメスを入れる」責任に見合った技術と知識を追求してゆきます。



- 1 齋藤 武(さいとう たけし)
- 2 埼玉県
- 3 他科・他職種と交流しやすいところ
- 4 考えたことないです
- 5 散歩
- 6 娘と遊ぶ・出かける



- 1 中田 光政(なかた みつゆき)
- 2 東京都
- 3 真摯に診療を行っているところ
- 4 農家
- 5 寝ること
- 6 こどもと遊ぶ、こどもと勉強



- 1 岩井 潤(いわい じゅん)
- 2 出生地は富山
- 3 看護師・コメディカルが熱心に手厚いケアを提供してくれる、連帯感
- 4 建築家、天文学(宇宙の起源が知りたい)や生物学関連 でしょうか
- 5 色々あり! 例えばジョギングしながら日差しを浴び風を感じ、空気を胸いっぱい吸い匂いを感じ、命あるもの全てに共感すること
- 6 家族と過ごす



- 1 佐永田 友季子(さえだ ゆきこ)
- 2 千葉県千葉市
- 3 どのスタッフも患者さんを一番に考えて働いているところ
- 4 一般企業に就職している
- 5 甘いものを食べてよく寝る
- 6 買い物、ドライブ



- 1 瀧口 翔太(たきぐち しょうた)
- 2 東京都
- 3 みなさんが子供のために働いているところ
- 4 教師
- 5 美味しいご飯と美味しいお酒
- 6 食べ歩き、買い物

- 1 氏名
- 2 出身地
- 3 こども病院の好きなところ
- 4 医者になってなかったら?
- 5 ストレス解消法
- 6 休日の過ごし方

# 神経内科 紹介

## 神経内科(小児神経科)とは

### 1. てんかん・てんかん性脳症の診断・治療

てんかんの患者さんは大変多く、West症候群、Dravet症候群など、特殊なてんかん・てんかん性脳症の患者さんも数多く診断・診療をしています。必要に応じて長時間脳波、発作時ビデオ脳波検査を行っており、適切な加療を心掛けています。

### 2. 急性脳炎・脳症、抗NMDA受容体脳炎など自己免疫性脳炎の診断・治療

発熱に伴い意識障害・痙攣で発症する急性脳症以外のほか、急性散在性脳脊髄炎、抗NMDA受容体脳炎といった稀な自己免疫性脳炎疾の診断・加療を行っており、これらは病態・治療法解明の研究も行っております。

### 3. 神経筋疾患の遺伝子治療

これまで対症療法しか存在しなかった神経筋疾患に対する遺伝子治療薬が近年発売されました。千葉県こども病院神経内科では、これまで多くの脊髄性筋萎縮症の患者さんに対し遺伝子治療を行い、豊富な経験をシンポジウムなどで全国講演しています。その他、筋疾患については、非侵襲的な検査から原因検索開始し、必要に応じて筋生検も行っております。診断確定後も理学療法や呼吸器の導入なども行っております。

### 4. 副腎白質ジストロフィーなどの、脳の代謝・変性疾患の診断・加療

稀な疾患が多く診断に特殊な検査・治療が必要な場合もあり、迅速かつ適切な診断を行い、必要に応じて他科と連携した治療を行います。

### 5. 発達のおくれ・脳麻痺などの原因検索

原因が不明の場合には当科にて検索や診断を行い、その後は療育センターなどをご紹介し早期療育を支援しています。

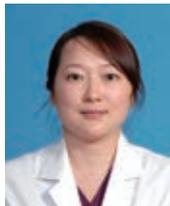
### 6. その他

これ以外にも、脳、神経、筋に原因があると思われる場合には幅広く診療を行っています。

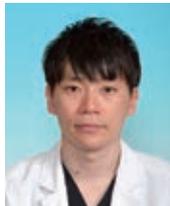
けいれん、運動・知能・感覚・行動または言葉の障害など脳、神経、筋に何らかの異常がある小児の診断、治療、指導を行う科です。急性脳炎・脳症、てんかん、重症筋無力症や筋ジストロフィーなど神経筋疾患、重症心身障害児の急性疾患など、日々多くの患者さんの診療を行っております。また、脊髄性筋萎縮症に対する最新の遺伝子治療も行っており、治療可能な疾患の早期診断・早期治療を心がけています。



- 1 小俣 卓(おまた たく)
- 2 神奈川県川崎市
- 3 カブトムシがとれる
- 4 熱帯魚屋さん
- 5 虫捕り
- 6 こどもと乗り鉄



- 1 青山 弘美(あおやま ひろみ)
- 2 生まれは広島ですが、ほぼ千葉に住んでいます
- 3 スタッフみんなが、こどものためを考えて働いているところ
- 4 何か食べ物にかかわる仕事
- 5 のんびり過ごすこと
- 6 おでかけ、読書、プランター菜園



- 1 藤本 遼(ふじもと りょう)
- 2 東京都
- 3 スタッフが優しいところ
- 4 会社員
- 5 運動、睡眠、お風呂
- 6 こどもと楽しむ、掃除



- 1 山口 亮(やまぐち りょう)
- 2 千葉県
- 3 診療科間の垣根が低く、相談・連携をしやすいところ
- 4 職人を目指したいです
- 5 日光浴
- 6 最近ゴルフを始めてみました



- 1 川口 理紗(かわぐち りさ)
- 2 千葉県
- 3 緑豊かな環境で、のびのび働けるところ
- 4 言語聴覚士
- 5 筋トレ、料理に没頭すること
- 6 1週間分の食料買い出し、作り置き

- 1 氏名
- 2 出身地
- 3 こども病院の好きなおところ
- 4 医者になってなかったら?
- 5 ストレス解消法
- 6 休日の過ごし方



# 栄養科のご紹介

## #栄養科はどんなところ？

栄養科は本館1階にあり、病院管理栄養士6名と給食委託会社(株)レパスト職員(栄養士・調理師・調理員)29名で業務を行っています。



調理の様子

## 給食業務

入院患者さんの給食を作っています。月齢・年齢に合わせたミルク、離乳食、幼児食、学童食、青年食、成人食を提供しています。また食事療法が必要な患者さんへは医師の指示に基づき「特別食」として治療乳、エネルギーコントロール食、たんぱく制限食、減塩食、食物アレルギー食、脂肪制限食、潰瘍食等を提供しています。摂食嚥下能力に応じた食事形態調整（一口大、ぎざみ食、ペーストなど）も看護師・リハビリスタッフの協力のもと行っています。学童以上の患者さんには週3回おかずが選べる選択メニューのサービスを実施しています。また毎月、調理師の気が入った行事食も提供しています。



新幹線弁当

こどもの日



節分太巻き(鬼)



## 栄養管理業務

食欲がなかったり、食物アレルギーなどで食べられないものがある場合、管理栄養士が病棟に訪問して食事調整を行います。また、一人ひとりの発育状態を定期的に評価し、食事内容の変更を主治医に提案することもあります。退院前には自宅での食事や栄養管理の方法について栄養指導も行っています。

## 食育・イベント

長期入院の患者さんを中心に病院での食事を理解してもらう食育や、病棟でのイベントの協力、厨房見学などを行っています。



管理栄養士



株レパストのみなさん

## 患者さん・ご家族のかたへ

栄養科では、職員一同でバランスよく、おいしく残さずに食べてもらえる給食づくりを目指して日々業務を行っています。食事に心配なことがあれば栄養相談、自宅での食事や栄養管理方法については栄養指導が行えます。病院スタッフにお申し出ください。



## ～令和4年度新採用者を迎えて～

令和4年4月1日、コロナ禍において2年ぶりに県庁での辞令交付式に臨んだ25名の新規採用看護師が千葉県こども病院に到着し、新たな仲間に加わりました。そのうち2名は、一足先に病棟で看護師として活躍してくれており、新たに23名のフレッシュな顔ぶれがそろいました。新採用者の出身校は実に12の都道府県にのぼり、北海道から九州の全国各地から専門的な小児看護の実践を目指して千葉県こども病院に集まっています。

千葉県こども病院の一員として緊張した面持ちでしたが、4月12日には配属部署が発表されるとキリッとした顔つきに変わってきました。現在は月に1回～2回の集合研修を行っています。

これから、たくさんの努力と笑顔で、素敵な看護師を目指して一緒に頑張っていきます！



看護局



## こども・家族支援センター 地域医療連携室の事務職員の役割

千葉県こども病院は、2004年12月より地域医療支援病院として承認を受け、地域の医療機関の皆様と連携を密にして、地域の小児医療水準の向上に努めております。

日々、皆様との連携を支援しているのは、3名の事務職員です。お子さんとご家族が安心して医療を受けられるように、こども・家族支援センターの窓口として活動しています。

具体的な仕事の内容としては、他の医療機関からの患者紹介・診療予約のご案内、セカンドオピニオンに関する窓口、紹介元医療機関の皆様へ来院報告書や診療情報提供書などの発送、紹介率・逆紹介率等の統計資料作成等があります。

また、登録医の皆様へのインフォメーション及び申請登録などの業務も担っております。登録医ならびに登録医療機関の方々へは、小児臨床症例研究会などの各種研修の開催、図書室の利用、医療・医薬品情報等のお知らせ、入院診療及び手術への参加、高度医療機器（MRI・CT）の利用などの支援機能を強化し、地域医療支援病院としてより一層、連携を深めてまいりたいと考えております。

新規に登録医の申請をご希望される場合は、こども・家族支援センター 地域医療連携室までお問い合わせください。



## 退任のご挨拶

2022年3月末日をもって、千葉県こども病院を定年退職いたしました。また、同日、千葉県こども病院名誉病院長の称号を山崎晋一郎病院局長よりいただきました。2002年4月にアレルギー科医長として赴任してからの20年間、伊達裕昭病院長のあとを引き継いで2016年に病院長となつてからの6年間、地域の皆さま、こども病院の職員の皆さまをはじめ、多くの皆さまにたいへんお世話になりました。心からお礼を申し上げます。



臨床について振り返ってみますと、食物アレルギーに対する経口免疫療法、小児リウマチ性疾患などに対する生物学的製剤治療がまさに始まった時期であり、多くの仲間とともに新しい治療に取り組むことができました。出会った患者さんご家族の顔が次々と浮かんできます。一方、病院を運営するうえでの体制整備が、国から、社会から、次々と求められた20年でした。医学研究倫理、医師研修制度、医療安全、感染管理、労務環境、働き方改革など、それぞれが大きなテーマで、体制の整備と維持に多大な労力を要するものばかりでした。倫理審査委員会、教育研修学術委員会、医療安全管理室、感染管理室、働き方改革委員会など、多くの委員会や室を整備し、それぞれの責任者、担当者を中心に活発に活動していただきました。

また、小児人口は減少し、共働きが当たり前となり、個人の孤立・子育て家族の孤立が進みました。医療的ケア児の増加、在宅重症小児の増加、入院患者の重症化も顕著となりました。財政悪化を背景とした医療費削減方針のもと、経営視点にそつた病院運営が求められました。これらに加え、2020年からは新型コロナウイルス感染症対応が最優先となり、感染管理、病棟再編、小児患者受け入れ、臨時医療施設への職員派遣など、病院をあげて対応していただきました。

これだけの大きな課題の中でしたが、こどもたちに対する質の高い医療の提供こそ当院が第一にやるべきことです。病院を去るにあたり開いていただいた「送る会」において、「こんな病院でありたい、ありつづけてほしい」という5項目について話をさせていただきました。



1. 「その子らしく、その子のために」を、心から大切にしている病院
  2. 「こどもと家族」をまるごと支える病院
  3. みんなで支える、チームで支える病院
  4. 職員が、小児医療のプロフェッショナルとしての誇りと責任感、高い倫理観を持っている病院
  5. 職員同士が、お互いを信頼し、尊重し、大切な仲間と思っている病院
- その多くはすでに達成されていますが、いまだ不十分なところもあります。中島弘道病院長、皆川真規副病院長のもと、さらなる高みを目指して前に進んで行って欲しいと思います。こども病院が益々発展充実していくことを心から祈念しています。

令和4年5月  
前病院長 星岡 明